

ウマレタバカリノウタバカリ/戸田大地

- 1.明日に成ったら
- 2.夜明けにヘッドライト
- 3.誰も知らない僕と僕の知らない誰か
- 4.アシッド・ブラックキャット
- 5.紙風船
- 6.きみの唄
- 7.タイムマシン

2013 年作品

2021 年リマスター

1.明日になったら

明日になったら 世界がひとつ年をとり
心のカケラがひとつ砕け散る事だろう
つまらない街からひとりの男が旅立つ事だろう

明日になったら 明日になったら
明日になったら そう言ってる間は
明日に成っても 何も変わらない

明日になったら 歴史がひとつ風化して
ひとりの偉人が何だったのか忘れられる事だろう
そこにどっからか流行りのスターが滑り込む事だろう

明日になったら 明日になったら
明日になったら そう言ってる間は
明日に成っても 何も変わらない

2.夜明けにヘッドライト

始発電車の中 動き出すのを待ってる
昨日と明日の間で 闇を飲み込んだ
誰かの言葉は又 僕の心を乱した
どうしても良い事なのか 大切な事か
間違えたくないから 動かずに居たら
置いてけぼりになって 元も子も無くなって
光のようなミュージック ヨロコビのロックンロール
どうか照らしておくれ 今日を与えておくれ
ヘイ・ヘイ・ヘイ・・・

仲間達はそれぞれ 居場所を見つけて
幸せを紡ぐ度 いつも己と比べた
決してこの毎日が 哀しいワケじゃないのに
形ひとつできない 想いの重り引きずる
はじまりを弾く人 終わりに追われる人
並び座りまどろみ そしてそれぞれと向き合う
「お待たせ致しました 間もなく発車します」
目覚まし時計に似た 長いベルが鳴り響く
ヘイ・ヘイ・ヘイ・・・

夜明けを切り裂いて探しに行くんだ
いつか失ったコトバや
これから出逢うだろう「キミ」や
そんな全てを揺り動かす
不恰好なイメージを

始発列車の中 動き出すのを待ってる
昨日と明日の間に 今日が待っていた
ヘイ・ヘイ・ヘイ・・・

3.誰も知らない僕と僕の知らない誰か

誰も知らない僕と僕の知らない誰か
同じ目鼻口を揃えて 両手両足を並べて
誰も知らない僕と僕の知らない誰か
哀しければ泣くだろうし 嬉しければ笑おうし
君は正直 どうでもいいだろうけど
君は正直 どうでもいいだろうけど

誰も知らない僕と僕の知らない誰か
何故だか生れ落ちたのさ そして何故だか死に行くのさ
誰も知らない僕と僕の知らない誰か
僕が道を尋ねたら 君は教えてくれますか
何でも無い事 心に積み重ねようぜ
何でも無い事 心に積み重ねようぜ

誰も知らない僕と僕の知らない誰か
同じ目鼻口を揃えて 両手両足を並べて
誰も知らない僕と僕の知らない誰か
例えばこんな歌ひとつで 少し時間をくれますか
君は正直 どうでもいいだろうけど
君は正直 どうでもいいだろうけど
何でも無い事 心に積み重ねようぜ
何でも無い事 心に積み重ねようぜ

4.アシッド・ブラックキャット

明からさまに表面化されし嫌悪感
横目に走れ最終バス ターミナルは増埒
存在・存在・存在と来て まさかの俺で
天変地異も必然と言う ユートピア

コンディション安定は理想で有るものの
情緒は現在いまだファック 止めたシガレット
灰皿 ヤニ塗れの人生 宇宙の青は
我々の血液さ 秒針無きクロック

真夜中 だから 黒猫になる
醜く 気高き 黒猫になる

肋骨の隙間より出しシンボル
小腸は盲点の部位故 本来より徹底して
根源を排除・解除 便所虫の如き
蔓延する悪意の塊 「手遅れです」

ヒエラルキー 週刊誌の通り 典型的
ハウツウ本 死んだジョブス 何より談志
偉人・偉人 愛する自分の事も
勿論 尊ぶ事を忘れず 七転八倒

酔いどれ 共の 安宅の関よ
死ぬに死なれぬ 安宅の関よ

マヨナカ ダカラ クロネコ ニ ナル
ミニクク ケダカキ クロネコ ニ ナ ル

5.紙風船

ふうわり ふうわり 紙風船
あなたと私の間 舞い踊って
強い風に吹かれる前に
どうか届くように

伝えたい事が有りすぎて黙り込んでしまう
夕風優しく言葉の代わりに黒い髪を揺らす
いつの頃からかあなたの色に染まって
割れてしまいそうな私の心
切なくも鮮やかに
ふうわり ふうわり 紙風船
あなたと私の間 舞い踊って
強い風に吹かれる前に
どうか届くように

川沿いの路を走り行く子供らのように
全てが真っ直ぐ放たれるならばどれだけ良いでしょうか
あなたに出逢えた幸せの裏返しのような
伝わらぬ気持ち それでも
空はあまりにも遠すぎて
ふうわり ふうわり 紙風船
あなたと私の間 舞い踊って
強い風に吹かれる前に
どうか届くように

あなたに届け
あなたに届け
川面に揺らいでも
あなたに届け

6.きみの唄

きみの唄をうたう 雨上がりの商店街
母親の手を引っ張って 駆け出したチルドレン
きみの唄をうたう 10分後のバスを待つ
頬に涙の跡浮かべて ギター背負ったスクールガール
きみの唄をうたう 虚ろな目で競馬新聞
なけなしの金に手をつけようか 迷っているギャンブラー
きみの唄をうたう いつか描いた夢よりも
妻と子供のいる生活うたうと 決めたサラリーマン
きみが誰かを愛するように
誰かもきみを愛するでしょう
くらしの中で忘れないで
きみの唄 うたうひとのことを

きみの唄をうたう 夕暮れを通り抜ける風に
はじめてのタバコの煙 こっそり浮かべたティーンエイジャー
きみの唄をうたう 近づく人生の終わりに
悟った顔してもやっぱりドキドキするグランドマザー
きみの唄をうたう 自分の痛みや苦しみを
やっとの思いで歌にし伝えようとするロックスター
きみの唄をうたう 踏み切りの向こう側で
僕のこと気付いたのか 手を振ったマイフレンド
きみが何かに傷つけられた日も
誰かがきみに救われたでしょう
くらしの中でわすれないで
きみの唄 うたうひとのことを

きみは今日も誰かの唄をうたう
そんなきみをうたわせてくれないか

きみが誰かを愛するように
誰かもきみを愛するでしょう
くらしの中で忘れないで
きみの唄 うたうひとのことを

7.タイムマシン

例えば僕がこのギターと出会ってもう八年が経って
数え切れないステージ 数え切れない歌 誰かに向かって歌った
そんな誰かの中にはもう 二度と会えない人がいるんだ
遠い世界に行っちゃった人 今も元気にして欲しい人
僕が歌い続ける理由はきっと
「いつか」と「いつも」を繋いでおきたいから
少しだけ昔に戻れたらいいよな
ほんの数分でかまわないから
一番新しい歌ができたんだ
こんな風に僕は生きてきたんだ

例えば僕が君と出会ってもう何度目の朝だろうか
数え切れない言葉交わしてきた 二人の時間の中で
そんな全てを覚えているわけは勿論ないけれども
だからこそたまにふとした事で 思い出したりするんだ
君とずっと居られるならば
僕らが連ねた日々に又 会えるのさ
少しだけ未来にこんな「今」の事
思い出した時 笑えるように
哀しみも全て花咲かす雨さ
そんな風に歌を紡いでいこうか

タイムマシンに乗っているんだ
昔を抱いて未来へ行くんだ
タイムマシンに乗っているんだ
そして今君に伝えたいことがあるんだ

少しだけ昔に戻れたら
少しだけ未来に笑えたらいいな
その中で出会えた全ての人達と
愛する君に歌を捧げよう

ラララ・・・